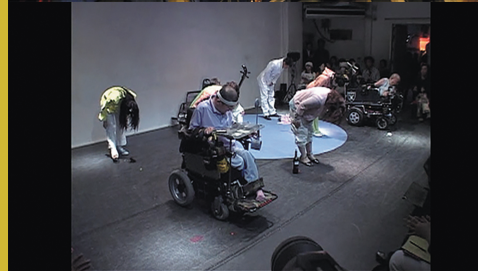


マイノリティとマジョリティ。
あれから10年、境界線は動いたか？



佐々木誠 監督作品

映画 記憶との対話

～マイノリマジョリテ・トラベル、10年目の検証～

監督/撮影/編集：佐々木誠 製作総指揮：樺山智子

製作：マイノリマジョリテ・トラベル・クロニクル実行委員会 2016年/日本/61分

<http://mimajo.net/>

令和元年度 厚生労働省障害者芸術文化活動普及支援事業

アクセシビリティ研修

2019年9月24日(火) 13:00～16:30

会場：ぎふ清流文化プラザ (〒502-0841岐阜県岐阜市学園町3-42 TEL.058-233-8121)

定員：50名 (定員に達し次第申込を締め切ります。)

入場料：無料

障害のある方もない方もアート活動を楽しむ環境づくりの一環でアクセシビリティ研修を実施します。今回は、映画『記憶との対話～マイノリマジョリテ・トラベル、10年目の検証～』の上映を通じて、様々な視点でアクセシビリティとは何かを考えてみたいと思います。

講師プロフィール

樺山 智子 もみやまともこ

マイノリマジョリテ・トラベル・クロニクル実行委員会代表

福井生まれ、ニューヨーク育ち、東京在住の作曲家、アーティスト、通訳者。スタンフォード大学にて作曲と文化心理学を学び、文化庁新進芸術家としてオランダ王立ハーグ音楽院作曲科で研鑽を積む。世界各地の芸術祭などで人と環境の関係性を問うサイト・スペシフィックなプロジェクトを展開。周縁化された人々や異分野の専門家等と協働し、対話を媒介しながら複数の物語を紡ぎ合わせることで、非人類中心主義的なパラダイムから世界を聴くための新たな共同体の音楽を探索している。日本相模間芸術作曲家協議会理事、Art Translators Collective 創立メンバー。【<https://www.tomokomomiyama.com/>】



長津 結一郎 ながつ ゆういちろう

九州大学大学院芸術工学研究院 助教

アーツ・マネジメント、文化政策学、芸術社会学などをベースとし、障害のある人などの多様な背景を持つ人々の表現活動に着目した研究を行なう。また近年は、芸術活動の担い手育成や市民創作ワークショップをフィールドとして、芸術文化の持つ役割についての考察を深めている。著書『舞台の上の障害者：境界から生まれる表現』（九州大学出版会、2018年）にマイノリマジョリテ・トラベルのフィールドワークを掲載。共著に『はじめての“社会包摂×文化芸術”ハンドブック』（九州大学大学院芸術工学研究院ソーシャルアートラボ、2019年）、共編に『アートプロジェクト：芸術と共創する社会』（水曜社、2014年）など。



申込方法 >>> 所属、氏名をご記載の上、info@niigata-artbrut.netまでメールにてお申込みください。

【問い合わせ先】東海・北陸ブロック障害者芸術文化活動広域支援センター

〒943-0834 新潟県上越市西城町2-10-25大島ビル307号室 TEL：025-530-7264 メール：info@niigata-artbrut.net

主催：東海・北陸ブロック障害者芸術文化活動広域支援センター